

事業のタネシート

活動地域・団体名：大月町・NPO法人大月地域資源活用協議会

事業名称 1：黒炭生産事業

あらすじ

森林率78%、林業に従事している人が少ない・増えない、という課題を抱えている本町。豊かな山林資源を活用し、ぼちぼちの山業で生活を支えるため複数の事業生みだすことを目標としています。黒炭の生産はぼちぼちのなかでも、生活の半分を占める複業となり得ます。

ストーリー

本町にやってくる移住者は自然の近くで生活することを希望してやってきます。ダイビング、飲食、農業など自分のこれがやりたい！という熱意で生計を立てている方が多くおられます。しかし、通年ではなく季節が限定されることがほとんどで生活が安定しません。そんな方々に山業を一部担ってもらうことで、環境と担い手、双方にとっても良い事業！となることを目指しています。担い手の中には自身で飲食をしている人もおり、窯を作って炭でピザを焼けるように、といった目標を持っている人もいます。町内での雇用を増やし、お金を生むことで町内の山業以外の生業の成長も期待できます。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	複数のぼちぼち山業で豊かな生活スタイルをつくる ぼちぼち黒炭生産し、生業の半分は担える山業	①研修用窯の建設②製炭技術の習得③研修後の担い手サポート：R5年度の研修で売物となりうる炭が焼けるようになるか？④取引価格の設定：現在交渉中4社と取引価格を交渉中。4社以外にも販路は広げていくべき。
②課題	①山の資源はあるのに活用しきれていない②町内に仕事が少ない③山林資源を活用して生業にする人が少ない	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	今後山の仕事は増える見込みなのに山に入る人が増えない。専業でなくてよい、1シーズンだけでも、山業に関わってもらいたい。経済面で支えられるようにチップに出すのではなく炭にし、付加価値をつけることで取引単価をあげます。	
④地域資源	①広葉樹林②備長炭生産組合③複業で生計を成り立たせている移住者	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	黒炭を生産することで、町内雇用、町の山業に関わる人を増やすことにつながります	
⑥担い手（Who）	町内の意欲のある黒炭生産希望者。現在4名ですが、活動が活発になれば新たな担い手として声をかけられそうな人もいます。移住希望者で炭焼きに興味がある方など、町の移住チームと連携することで今後担い手を増やすことは充分可能です。	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	「炭」の国内消費は年間約15万トンと言われていますが、そのうち約10%程度しか国内で生産されていません。町内から炭の供給を増やすことで、担い手にとって：賃金が発生→他の複業への投資が期待できます。また、環境にとって：製炭者が自材を取りに行く→手つかずの山が管理される山へ→自然災害時に被害を小さくすることができる、かつ海への土砂への流入も防ぐことが期待できます。	①②窯作り、炭作りそれぞれ県内で専門家に交渉済③研修後にさらなるサポートが必要かどうかは研修を終えて担い手で製炭し、その後交渉中の専門家に相談したい。④炭は消臭や水質改善、家畜の飼料に添加するなど他に使い道がある。卸だけではなく製品に活用する企業と直接やりとりできるようになると良い。
⑧事業で生じる成果	今後製炭業が活発になると以下のことが期待できそうです。①隣の市へ1時間以上かけてチップ用に出していた町内小規模林業従事者が町内に雑木を卸してくれるようになる→町内で雑木卸市場ができるかも！？②炭にも薪にもならないものは町内でチップにし、木質バイオマスとして活用する③クヌギ（成長が早く、10～15年で原木として活用が可能、かつ茶炭として他の樹種よりも高く取引される）などの循環する山を目指して植林を進める④製炭者が自材を取りに行くことで山に入る人が増え手つかずの山が管理される山へ（自然災害時に被害を小さくすることができる）	

事業名称2：新生産事業		
あらすじ		
<p>森林率78%、林業に従事している人が少ない・増えない、という課題を抱えている本町。豊かな山林資源を活用し、ぼちぼちの山業で生活を支えるため複数の事業生みだすことを目標としています。新生産は比較的早く収入につながるのと、ある程度まとまった収入が得られることから炭焼き希望者が生産者となるまでの生活を支えます。</p>		
ストーリー		
<p>山業に関わりたい人にとって、黒炭生産はハードルが高いし、山師はもつてのほかです。ちょっと興味がある！という人たちが取り組みやすいよう、山に入ったことがない人でもできる新生産の一部を担ってもらうところからスタートし、徐々に原木を取りに山へ、自伐林家さんのお手伝いへ、ステップアップすることが可能になるでしょう。また、黒炭生産希望者にとっては、収入を得られるようになるには窯の建設・一定期間の炭焼き研修が必要です。研修が終わっても売り物になるのは少し時間がかかるかもしれません。そうすると実際収入につながるのは何年後になるのかわかりません。山業に興味がある人、炭焼きに興味を持ってついて来てくれている仲間のぼちぼちの収入を補うものとして、新生産事業が受け皿となります。</p>		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	複数のぼちぼち山業で豊かな生活スタイルをつくる 山業に関わりたい人のファーストステップ山業	<p>・薪割り木の購入または修繕が必要・玉切りし乾燥させる場の準備・立ち上げ初期段階の原木調達方法について</p>
②課題	①山の資源はあるのに活用しきれしていない②町内に仕事が少ない③山林資源を活用して生業にする人が少ない④黒炭は研修などによりすぐに収入にはつながらない⑤山に入ったことがない人にとって山業へのハードルは高い	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	山業に関わりたい人にとって、黒炭生産はハードルが高く、お茶生産ではすきまが多くなりすぎます。山業に関わりたい人のきっかけとして、薪の生産は入りやすい入口になります。	
④地域資源	①広葉樹林②備長炭生産組合③複業で生計を成り立たせている移住者④炭焼き希望者	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	町内キャンプ場、ふるさと納税の返礼品、町内炭生産用として薪の提供。	
⑥担い手（Who）	山業に興味がある人、炭焼き希望者	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	黒炭生産と同じ循環が想定されます。薪が黒炭より優れている点は、黒炭よりはハードルを下げて取り組むことができることで巻き込める人の層が広がることと、黒炭生産の際も活用できることから町内での資源の循環が生まれます。	<p>・町内の備長炭生産組合が現状人手が足りないまま新生産を一部担っている。新生産体制の構築を一緒にお願いできないか調整が必要。</p>
⑧事業で生じる成果	黒炭と同様の成果が想定されます。①隣の市へ1時間以上かけてチップ用に出していた町内小規模林業従事者が町内に雑木を卸してくれるようになる→町内で雑木卸市場ができるかも！？②炭にも薪にもならないものは町内でチップにし、木質バイオマスとして活用する③クスギ（成長が早く、10～15年で原木として活用が可能、かつ茶炭として他の樹種よりも高く取引される）などの循環する山を目指して植林を進める④生産者が自ら材を取りに行くことで山に入る人が増え手つかずの山が管理される山へ（自然災害時に被害を小さくすることができる）	

事業名称3：広葉樹すきま事業	
あらすじ	
<p>森林率78%、林業に従事している人が少ない・増えない、という課題を抱えている本町。豊かな山林資源を活用し、ぼちぼちの山業で生活を支えるため複数の事業生みだすことを目標としています。ぼちぼちの程度は人それぞれです。広葉樹すきま事業は1日数時間から1か月の内3日だけ、など短時間で生活に取り入れやすい事業を指しています。</p>	
ストーリー	
<p>山師を専業とする人にとって天候の悪い時期やつちの日などは山仕事が出来ない期間であり、年間を通じて安定した収入が得られません。炭をつくるよりもっと短いすきまの時間で、かつ山の仕事と兼業できる“何か”が、求められています。たとえば、広葉樹を活用したお茶の生産。お茶の効果はお茶葉にだけあるわけではないと思っています。パッケージを工夫したら、海がきれいな町としてのイメージが強い大月町に「山の仕事もあるのか」と知ってもらうきっかけになるでしょう。また、お茶生産の一部にはどんな方でも取り組みやすい作業もあります。様々な事情で通常の雇用形態での就労が難しい方に担ってもらえることができれば？その方や周りの家族にとってもちょっと豊かな生活が送れるかもしれません。生き生きと働いてもらう場の受け皿となる可能性は充分あります。社会を豊かにしたい、そんな願いがこの事業には込められています。</p>	
事業の骨子	現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	<p>複数のぼちぼち山業で豊かな生活スタイルをつくる 生活に取り入れやすいぼちぼち山業</p> <p>お茶の生産が本格的な時、事業体として場を構える必要があります。</p>
②課題	<p>①安定した収入が得られない②山林資源を活用して生業にする人が少ない③山の資源はあるのに活用しきれていない</p> <p>どのぐらいのスペースで？どのぐらいの設備なら充分か？山業を広めるためのツールとして役割はどのように成果を可視化するか？大手雑貨店などへの取扱いも目指します</p>
③なぜこの事業をやるのか（Why）	<p>山師を専業とする人にとって天候の悪い時期やつちの日などは山仕事が出来ない期間であり、年間を通じて安定した収入が得られません。炭をつくるよりもっと短いすきまの時間で、かつ山の仕事と兼業できる生業のひとつとしてお茶の生産は取り組みやすい事業です。また、一部単純作業があることから、通常の就労が難しい方の受け皿となるでしょう。</p>
④地域資源	<p>広葉樹木、大月森づくり会（自伐型林業）、すきまワーカー</p>
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	<p>雑木の葉を活用したお茶の生産・販売を通して→広報活動を行う。移住希望の方、大月町に興味をもってきている方、町内外の山主、地域住民に対して山の生業が活発になってきていること、山の役割について</p>
⑥担い手（Who）	<p>今年度の活動の中で得た仲間からお茶生産チームを結成しました。退職後の方、子育て中のお母さん、事情があって外で働けない方など今後の担い手の姿も見えてきています。運用チームメンバー兼この事業のリーダーが樹種について詳しいため商品開発を担当、外部の専門家にします。</p> <p>課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像</p>
⑦事業で生じる循環	<p>すきまワーカー・専業山師→お茶他すきま事業の担い手へ→町外移住希望者、次の担い手へのPR→林業を専業でやりたい人の増加が期待できます。また家族で移住される場合、林業を専業でやらない方にも他の複業を提案することができます。</p> <p>県内でお茶の生産をされている方がおられます。一度訪問し、参考にさせていただきたいです。他、モノをツールに広報を行っている商品の紹介などしてもらいたいです。</p>
⑧事業で生じる成果	<p>①お茶を媒介して大月町＝山もあります！の広報活動→林業専業従事者・山業従事者増加（一緒にやってくる専業従事者のパートナーへ複業の選択肢を提案）②見えていない働き手の雇用の場へ</p>